



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月8日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 8214 URL http://www.aoki-hd.co.jp/  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	137,088	2.8	5,182	21.6	4,557	14.7	2,237	△1.5
29年3月期第3四半期	133,404	1.8	4,259	△48.7	3,972	△51.3	2,271	△51.9

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 2,543百万円(0.2%) 29年3月期第3四半期 2,538百万円(△46.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
30年3月期第3四半期	円 銭 25.72	円 銭 —
29年3月期第3四半期	25.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
30年3月期第3四半期	百万円 231,731	百万円 142,100	% 61.3
29年3月期	234,681	143,906	61.3

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 142,012百万円 29年3月期 143,818百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
29年3月期	円 銭 —	円 銭 21.00	円 銭 —	円 銭 22.00	円 銭 43.00
30年3月期	—	22.00	—		
30年3月期(予想)				22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	199,850	3.0	14,500	0.4	14,000	0.8	7,600	3.3	87.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	30年3月期3Q	90,649,504株	29年3月期	90,649,504株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	3,768,614株	29年3月期	3,404,290株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	30年3月期3Q	86,977,232株	29年3月期3Q	88,461,871株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などにより、緩やかな回復基調が継続しております。一方、個人消費は株価上昇などによる消費マインドの改善はあるものの、節約志向は根強く依然として力強さに欠ける状況で推移しており、また、海外情勢の不確実性などもあり、景気の先行きは不透明な状況となっております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は1,370億88百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は51億82百万円（前年同期比21.6%増）、経常利益は45億57百万円（前年同期比14.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は22億37百万円（前年同期比1.5%減）となりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

#### (ファッション事業)

AOKIでは、ストレッチ性のある生地と立体縫製により、動きやすさと着心地を追求した信州大学との産学協同開発商品「楽動スーツ&楽動コート」を提案するとともに、レディースにおいては「洗える・防シワ・ストレッチ」を備えた高機能商品を「はたラク服」として品揃えを拡充するなど、引き続き既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、大きいサイズの専門店「Size MAX(サイズマックス)」単独店や就活アイテム専門店など13店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため移転等を含め10店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は576店舗（前期末573店舗）となりました。

ORIHICA（オリヒカ）は、「スーパーノンアイロンシャツ」の拡充や「THE 3rd SUITS（サードスーツ）」をレディースにも展開するなど、ビジネス・ビジカジウェアの提案を更に強化いたしました。店舗面では、都心の銀座への出店を含め6店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため6店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は145店舗（前期末145店舗）となりました。

これらの結果、売上高は763億81百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は前期に実施した大規模改装に伴う費用が減少したこと等により5億25百万円（前年同期は5億13百万円の営業損失）となりました。

#### (アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウェディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、新たな集客経路としてのプロポーズプランを強化するとともに、多様化するお客様のニーズにお応えする新しい披露宴スタイル等の提案やアニヴェルセルのブランドイメージを強みとした販促・PRを実施いたしました。

これらの結果、売上高は210億78百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は23億24百万円（前年同期比2.0%減）となりました。

#### (カラオケルーム運営事業)

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、忘年会シーズンに合わせた多彩なパーティーコースの提案や人気キャラクターとのコラボレーションキャンペーンを実施するとともに、カラオケ最新機種を導入するなど、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、5店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため6店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は184店舗（前期末185店舗）となりました。

これらの結果、売上高は140億82百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は人件費等の売上原価が増加し4億83百万円（前年同期比18.2%減）となりました。

#### (複合カフェ運営事業)

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、女性専用エリアの導入やブース構成の改善を中心としたリニューアルの実施とコンテンツ及びフードメニューの強化等により、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、22店舗を新規出店した一方、4店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は364店舗（前期末346店舗）となりました。

これらの結果、売上高は新規出店等が寄与し255億73百万円（前年同期比14.2%増）、営業利益は減価償却費や人件費等の売上原価が増加し13億49百万円（前年同期比2.3%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ29億49百万円減少し、2,317億31百万円となりました。

流動資産は、たな卸資産が季節的要因等により12億26百万円及び未収法人税等のその他が25億43百万円増加した一方、現金及び預金が設備投資や法人税等の支払い等により37億39百万円及び売掛金が季節的要因等により41億41百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ41億10百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店及びリニューアル等により22億69百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ11億60百万円増加いたしました。

### (負債)

流動負債は、短期借入金が45億円増加した一方、買掛金が季節的要因等により19億23百万円、1年内返済予定の長期借入金が15億円、未払法人税等が法人税等の支払いにより13億6百万円及び賞与引当金が支給等により6億37百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ15億29百万円減少いたしました。固定負債は、長期リース債務等のその他の増加等により、前連結会計年度末と比べ3億86百万円増加いたしました。

### (純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益及び剰余金の配当の結果15億93百万円減少し、自己株式が取得により5億18百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ18億5百万円減少しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績については、概ね予想どおり推移しており、平成29年11月9日に公表した業績予想は修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	28,608	24,868
売掛金	10,508	6,366
たな卸資産	26,905	28,131
その他	8,974	11,517
貸倒引当金	△32	△31
流動資産合計	74,963	70,852
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	61,568	62,115
土地	36,953	36,952
その他（純額）	13,164	14,887
有形固定資産合計	111,686	113,955
無形固定資産		
投資その他の資産	6,301	5,815
差入保証金	8,259	8,075
敷金	21,066	20,818
その他	12,444	12,254
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	41,730	41,107
固定資産合計	159,718	160,878
資産合計	234,681	231,731
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	19,159	17,236
短期借入金	—	4,500
1年内返済予定の長期借入金	4,150	2,650
未払法人税等	1,603	296
賞与引当金	1,647	1,010
役員賞与引当金	89	85
その他	12,546	11,888
流動負債合計	39,197	37,667
固定負債		
長期借入金	37,125	36,800
役員退職慰労引当金	1,949	1,991
ポイント引当金	1,069	985
退職給付に係る負債	976	1,049
資産除去債務	5,513	5,641
その他	4,943	5,495
固定負債合計	51,577	51,963
負債合計	90,774	89,631

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,833	27,833
利益剰余金	96,753	95,159
自己株式	△4,325	△4,843
株主資本合計	143,544	141,433
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	576	803
退職給付に係る調整累計額	△302	△223
その他の包括利益累計額合計	274	579
新株予約権	87	87
純資産合計	143,906	142,100
負債純資産合計	234,681	231,731

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	133,404	137,088
売上原価	76,374	79,557
売上総利益	57,030	57,531
販売費及び一般管理費	52,770	52,349
営業利益	4,259	5,182
営業外収益		
受取利息	74	71
受取配当金	91	59
不動産賃貸料	458	422
その他	209	126
営業外収益合計	834	680
営業外費用		
支払利息	237	252
不動産賃貸費用	382	366
その他	501	685
営業外費用合計	1,121	1,305
経常利益	3,972	4,557
特別利益		
投資有価証券売却益	545	—
特別利益合計	545	—
特別損失		
減損損失	471	593
固定資産売却損	—	38
災害による損失	102	—
特別損失合計	574	632
税金等調整前四半期純利益	3,944	3,925
法人税、住民税及び事業税	1,783	1,298
法人税等調整額	△110	389
法人税等合計	1,673	1,687
四半期純利益	2,271	2,237
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,271	2,237



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	2,271	2,237
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	179	227
退職給付に係る調整額	87	78
その他の包括利益合計	267	305
四半期包括利益	2,538	2,543
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,538	2,543
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

自己株式の取得

当社は、平成29年2月9日開催の取締役会決議に基づき、自己株式363千株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が516百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が4,843百万円となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	76,157	20,892	13,965	22,389	133,404	—	133,404
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	9	4	—	15	△15	—
計	76,158	20,901	13,969	22,389	133,420	△15	133,404
セグメント利益 又は損失(△)	△513	2,371	591	1,381	3,831	428	4,259

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額428百万円には、セグメント間取引消去3,268百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,840百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や建替えが決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ192百万円、206百万円及び72百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	76,368	21,067	14,077	25,573	137,088	—	137,088
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	10	4	—	27	△27	—
計	76,381	21,078	14,082	25,573	137,116	△27	137,088
セグメント利益	525	2,324	483	1,349	4,683	498	5,182

(注) 1. セグメント利益の調整額498百万円には、セグメント間取引消去3,187百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,688百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や建替えが決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ198百万円、10百万円、291百万円及び92百万円です。

(重要な後発事象)

当社は、平成30年1月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

1. 取得の理由 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主価値向上のため
2. 取得対象株式の種類 当社普通株式
3. 取得し得る株式の総数 100万株 (上限)  
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.15%)
4. 株式の取得価額の総額 20億円 (上限)
5. 取得期間 平成30年2月13日から平成30年12月28日まで
6. 取得方法 市場買付